

二〇一五年度 東海大学付属高輪台高等学校中等部

国語問題 第一回

注 意

1. 開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
2. この問題は一ページから十ページまである。よく確かめること。
3. 開始の合図があったら、受験番号・氏名を解答用紙に記入すること。
4. 試験時間は50分間である。
5. 終了の合図があったら問題用紙は机の右に、解答用紙は左にふせておくこと。

【国語】（第一回試験）（五〇分）（満点一〇〇点）

※文字は一画ずつ丁寧に書きなさい。

※解答に字数制限がある場合は、句読点なども一字として数えます。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。



『空中庭園』という小説を書いていたとき、仕事場の隣にスポーツクラブがあつて、小説書きに煮詰まると私はよくスポーツクラブにいつてランニングマシンで走った。走っていると、煮詰まった部分に風穴が開いて、今までは見えなかった角度から小説が見えて、抜け道がすつと浮かぶのである。その後、足のウラと脳みそは何か関係しているらしいと聞いて、実際の真偽はわからないが、私にとってはそれは事実だと思ふようになった。『空中庭園』のことを思い出すと、ああ、ランニングマシンで書いた小説だと自動的に思ふ。

それからしばらくして、友人のランニングチームにまぜてもらつて外を走るようになった。ランニングマシンで走れるのだから、だいじょうぶだろうと思つていたのだが、とんでもない。まったく違う。運動量も違ふし、使う筋肉も違ふ。疲労の違ひが甚だしい。ランニングマシンでは四十分ほど、距離にして五キロと少し走つていたが、外で走ると疲れてしまつて三キロも走れない。季節によつて気温もコトなる。暑くても寒くてもつらい。

陸における運動という運動、いっさいが苦手だし嫌いだ。強制的に運動させられていた子どものころから一貫してそうなのである。好きなのは水泳だけ。それでもはじめてしまつたので、三キロしか走れないところを、翌月、四キロと決め、なんとかがんばつてみた。すると四キロ走れた。その月は毎週末四キロずつ走つて、翌月、五キロにしてみる。おお、走ることができる。なんてことだ。私は一月ずつ、走る5をのばしていった。

ランニングチームの飲み会に加わりたかつたから走りはじめたけれど、三キロ走れない時点で、私は走るのが苦手だし嫌いだという自覚があつた。四キロになつても、八キロまでのびても、驚きはしたが、好きにはならなかつた。しかも、べつだん痩せるわけでもない。はたまたランニングマシンのように小説のことが考えられるということもない。足のウラを刺激しているのだが、風穴は開かなくなつてしまつた。おそらく、景色が刺激的で気がちるのだろう。いいことがない。

その後走る距離はどこまでのびたかという42・195キロ、フルマラソンまでのびた。距離しか問題にしないので、タイムは遅いままだ。これでタイムを速くしようなどと山つ氣を出すと、とたんに走るのをやめたいほどもつといやになるだろう。だから、山つ氣は出さない。向上心は持たない。

ランニングマシンから外に出るようになって、八年くらいになる。今でも毎週末走っている。好きになつたかといえ、否である。こういう話をすると、じつに多くの人が、「そんなに嫌いなことをよく続けていられますね」と言う。しかし私は思ふのである。人が何かを続けているのは好きだという理由だけではない

— 1 —

はずだ。はたまた、好きだから長続きするというわけでもないだろう。

私がランニングを続けている理由は、たまたまはじめてしまつたものの、やめどきがわからない、というものだ。今やめたらたぶんこの先一生走らない。だって好きではないんだもの。そして今では、走らないということがこわい。暴食はしないが暴飲を続ける私が、健康診断で何にも引つかからず、生活習慣の見なおしも求められずにいられるのは、おそらくいやや走っていることと関係があると思つていたのである。

それから、あまりに長く続けたために、今や週末に走ることを一日休んだだけで、猛烈な罪恶感に苦しむ羽目になつてゐるのだが、いっさい走らなくなつたらその罪恶感に漬物石のような重さで取り憑いて、なかなか消えないだろう。

速く走るコツもただしフォームもずつと知らないままなのだが、ひとつだけ、好きではないことを続けるにはどうすればいいか、自信を持つて言うことができる。習慣に組みこめばいいのである。ハ磨きのように、「この日のこの時間はこうするものだ」と体と頭にたたきこめばいいのである。そうすれば、毎土日、「ああ、晴れている、走らねば……」と、いやいやランニングウェアに着替へるようになるのである。

ランニングをする人が増えたけれど、走る理由はそれぞれ、じつに珍妙なことになるのである。

（角田光代「ネガティブ・ランニング」）

問一——線部ア、オのカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問二——線部1「煮詰まる」の文章中の意味として、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 煮えて水分がなくなつていくような状態のこと。
- 2 議論や考えが出つくしたような状態になること。
- 3 仕事に対するアイデアがなくなつてしまふこと。
- 4 考える気力が続かないで行きづまること。

問三——線部2「それ」の内容として、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 聞いた真偽の内容がわからないこと。
- 2 『空中庭園』という小説を書いていたこと。
- 3 足のウラと脳みそは何か関係しているらしいこと。
- 4 書いている小説の道筋が見えて抜け道が浮かぶこと。

問四——線部3「それから外を走るようになった」のはなぜか。その理由として最も適切な部分を、文中から二十五字以内で書き抜きなさい。

— 2 —

問五 — 線部 4「疲労の違いが甚だしい」の説明として、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 室内のランニングマシンと外で走るのを比べても、疲れはそれ程変わらない。
- 2 運動量も使う筋肉も違うので、ランニングマシンのほうが疲れてしまった。
- 3 変化のないランニングマシンで走ったほうが、とても疲れてしまった。
- 4 友人のランニングチームと外で走ったら、とても疲れてしまった。

問六 5 に入る最も適切な語を、文章中から書き抜きなさい。

問七 — 線部 6「いいことがない」のはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 外で走ってもランニングマシンのように小説のことが考えられないから。
- 2 室内のランニングマシンと違って、外で走ると周囲の景色が刺激的で集中できないから。
- 3 走るのは苦手だったが、その楽しさに気付いて少しずつ楽しくなり、距離が伸びたから。
- 4 痩せるために三キロから八キロまで一キロずつ距離をのばしていったから。

問八 — 線部 7「山っ気」の意味として、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 どっしりとした気持ち。
- 2 冒険を好む気持ち。
- 3 すがすがしい気持ち。
- 4 恐ろしい気持ち。

問九 — 線部 8「私がランニングを続けている理由」として、不適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 たまたまランニングを続けたらやめどきがわからなくなり、楽しくなったから。
- 2 ランニングが好きではないので、今やめたらこの先一生走らないと思っているから。
- 3 酒が好きな私が健康でいられるのは、走っていることと関係があると思っているから。
- 4 週末に走ることが習慣化しているので、それを止めると罪悪感を感じるから。

問十 — 線部 9「毎土日」と同じ意味の語を、文章中から三字で書き抜きなさい。

問十一 — 線部 10「……」に補うべき言葉を、ひらがなで書きなさい。

問十二 この文章の内容として、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 ランニングを続けることを消極的にとらえながらも、好きになろうと努力している。
- 2 嫌いなランニングを前向きにとらえようとして、毎土日に継続して取り組んでいる。
- 3 好きではなくても、ランニングは身体のため健康のために推進すべきだと主張している。
- 4 好きではないランニングを続けるには、それを習慣に組みこめばいいと述べている。

莉子の目の前には、朝陽をいっばいに浴びた蓮池がある。

ふつくと広がった蓮の花びらの内側には、銀の粉を散りばめたような無数の光が宿っていて、とまばゆい輝きを放っている。

顔をあげると、金色に輝いていた月はすでに色を失い、それでも空の高い位置に悠然と居座って、はるかな下界を見おろしていた。

(あれからわたし、どうしたんだっけ)

よつちゃんといっしょに蚊帳の中にもぐりこんでから、その先のことを、莉子はなんとか思い出そうとしていた。

(よつちゃんの寝顔を見ているうちに、わたしも眠ってしまったんだろうか……)

そのへんところが、どうもよくわからない。

ゆつくりと立ちあがり、腕を振りあげて大きく伸びをする。

なんだか、とても満たされた気分だった。おしゃまなよつちゃん。おしゃべり好きなえつちゃんとふみちゃん。そして、しっかりとしているようにでいて、照れ屋で、頑固で、泣き虫のゆきちゃん。

わたしが会ったゆきちゃんは、「わたしのお母さん」ではなくひとりの少女として、あの時代の瞬間、瞬間に、生き生きといのちを輝かせていた。

ひんやりとした朝の空気を胸いっばいに吸いこんでから、莉子は寝間に戻り、枕もとにたたんでおいたトンボ柄の浴衣を手にとった。

衿に、袖に、身ごろに運ばれた、ひと針、ひと針の糸のあと。決して規則正しいとは言えない、そのつたない手仕事をながめながら、ほの暗い電灯の下、アを丸めて一心に浴衣を縫うゆきちゃんの姿を思い浮かべた。

「莉子ちゃん、もう起きとったん？」

ふすまの向こうから、ふいに佳乃おばさんが顔を出した。朝食ができたので、莉子呼びにきたようだ。

莉子は浴衣をたたみ直しながら、とつくに起きてたよ、と返事をした。

I

こたえてから、莉子はたたんだ浴衣を正面に置いた。

「おばさん、言ったよね？ この浴衣、お母さんが泣きながら縫ってたって。わたし、その時のゆきちゃん

に会ってきたの」

「へええ」

佳乃おばさんは、驚いたような声を出してから、莉子と向かい合わせにイをおろした。

「えつちゃんとふみちゃんにも会ったよ。よつちゃんにもね。よつちゃんは、『うちにはおふとん、いっばいあるんよ』って、わたしを引き止めたの。それでいっしょにご飯を食べて、お風呂に入って、蚊帳の中で絵本を読んで」

4 目をしばたかせながら莉子の話を聞いていた佳乃おばさんは、

「そうや、そうや、思い出した」

と言って、手を打った。

「小さいころ、だれかがうちに泊まるってことになったら、そりゃあもう、うれしゅうてな。人数が多いほうが楽しいやろ？ でも、中には遠慮する人もおつてな。そういう時の決まり文句が、IIや

思い出させてくれるなんて、思ってもみなかった」

と、なんだかとても楽しそうだ。
「でもね、おばさん。ちよつと気になることもあったんだ。おじいちゃんは具合が悪そうで、奥の部屋にひとり寝てたの」

2、と、佳乃おばさんはうなずいて、

「おじいちゃんは、むかし絵の勉強をするために、この家を出て街でひとり暮らししとったことがあつてな。何年かたつて病気になるって、それで画家になるんをあきらめて戻ってきた。しばらくはずっと寝たきりで、おばさんは子ども心に、これからどうなるんやろうって、不安でたまらんかったんよ」

「おじいちゃん、つらかっただろうね」

「そうやね。でも莉子ちゃん、思い出してごらん。アトリエで絵を描いてる時、おじいちゃんとはとても楽しそうやったやろ？ だから、ええんよ。心配はいらん」

5 佳乃おばさんはそう言うってから、遠い日をなつかしんでいるかのようにほほ笑んで、トンボ柄の浴衣に視線を落とした。

「さあ、そろそろ朝ご飯にしようかね」

二人で蚊帳を片づけて台所へ向かい、あたため直した味噌汁をつぎ分けたところで、それぞれの席に着いた。

莉子は朝食を食べながら、思い出せる限り順を追って、ついさっきまで出かけていた時代で見聞きしてきたことを、佳乃おばさんに語って聞かせた。おばさんは時おりウを丸くしたり、3、とうなつて考えこんだりして、熱心に莉子の話を聞いていた。

「ねえ、おばさんは、どう思う？ おじいちゃんがわたしを見て、『おまえさん』って言ったこと。なんだか、ずっと前からわたしのことを知ってるみたいだった」

「そうやなあ」

佳乃おばさんは箸を置き、少し間をおいてから、

「そりゃあ、莉子ちゃん、そのとおりなんよ。おじいちゃんは、もつと前に莉子ちゃんに会ったことがあるんよ」

と、こたえた。

「つまりな、小夜子おばちゃんの宿題には、まだ続きがあるってこと」

「どういうこと？」

「莉子ちゃんは明日、今日よりももつと前の時代に出かけていくことになるんよ」

「もつとむかしに？」

「そう」

「そうか、明日もか、と莉子は思った。今日よりももつと前の時代とは、いったいどんなところだろう。こわいような、でもわくわくするような思いが、**エ**の中で一気にふくらんだ。

朝食をすませたあとは、莉子の提案で、家の前のお地藏さまにあいさつをしに行くことになった。

じゃり道をはさんだ向かい側には枇杷の老木があり、その根もとには**4**と、大人の背丈ほどの雑草がシゲ^アっている。莉子と佳乃おばさんは二人がかりで、それを大きくかき分けた。

「あった」

すすめたように黒く汚れ、色あせたよだれ掛けを首にかけている。この家の前でひとり静かに家族を見守っていた、小さなお地藏さまが姿を現した。長年のフウウにさらされてきたせいか傷みがひどく、目鼻だちの整ったその愛くるしい面差し⁸を確かめることはできなかったけれど。

佳乃おばさんは少しのあいだ、やさしい目をしてお地藏さまをながめ、

「長いこと、ごぶさたしとったわ。少しきれいにしておあげようかねえ」

莉子と佳乃おばさんは、周囲の雑草を刈り、傾きかけていた土台をまっすぐに立て直してから、しっかりと土を^ウもってぐらつかないようにした。

最後にそろって手を合わせた時、枇杷の木の葉をすり抜けて、真昼の白い陽の光^エが射した。それは**5**とお地藏さまに降りソソぎ、その口もとにはほんのりと、笑っているような影が宿っていた。

(本田昌子「夏の朝」)

問一 ― 線部ア～オのカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問二 **1** **5** に入る最も適切な語を、次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- 1 さんさん 2 うんうん 3 ぼうぼう 4 きらきら 5 ううん

問三 ― 線部1「そのへんのところ」が、どうもよくわからない」とあるが、この答えが記されている部分を文章中から十一字で書き抜きなさい。

問四 ― 線部2「なんだか、とても満たされた気分だった」のはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 周りの人々の存在を認識することで、自分の存在の確かさを感じたから。
- 2 周りの人々の存在を認識することで、自分が一人前であることを確信したから。
- 3 それぞれに生きている人々を見ることで、自分の生き方が定まったから。
- 4 それぞれに生きている人々を見ることで、自分への誇りを取り戻したから。

問五 ― 線部3「つたない」・8「面差し」の意味として、正しいものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|---------|
| 3 「つたない」 | 1 器用な | 2 丁寧な | 3 下手な | 4 いい加減な |
| 8 「面差し」 | 1 表情 | 2 容姿 | 3 立ち姿 | 4 髪型 |

問六 **I** に、次の会話が成立するよう順番に並べなさい。

- 1 「でもね、ぼん、っていう音は、やっぱり聞こえなかった」
- 2 「だって、蓮の花は夜明け前から咲き始めるんだもん」
- 3 「そりゃあ残念やったな。そやけどその様子じゃあ、また不思議なことが起こったんやろ？」
- 4 「ほんまに毎日早起きしとるんやね」
- 5 「うん。実はそうなの、おばさん」
- 6 「それにしたって、たいしたもんや。感心、感心」

問七 **ア** **エ** に体の一部を表す漢字を入れ、文の意味が通るようにしなさい。

問八 ― 線部4「目をしばたかせながら」の説明として、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 目を白黒させる疑いの動作。
- 2 目を白黒させる驚きの動作。
- 3 目を閉じたり開いたりする疑いの動作。
- 4 目を閉じたり開いたりする驚きの動作。

問九 **II** に入る部分を、文章中から二十字以内で書き抜きなさい。

問十 ― 線部5「遠い日」とは具体的にいつのことか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 子供の頃 2 四・五年前 3 未来 4 楽しかった時代

問十一 — 線部 6「佳乃おばさんは箸を置き、少し間をおいてから」とあるが、この時の佳乃おばさんの

気持ちとして、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 会話をもつと楽しみたいという気持ち。
- 2 早く話を切り上げたいという気持ち。
- 3 あらたまつて話をしようという気持ち。
- 4 別の話題に変えたいという気持ち。

問十二 — 線部 7「こわいようなくような思い」の説明として、最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 現実には起こり得ないことが自分の身に起こることへの怖れと、そこで出会う人々を通して自分が生まれる前を知ることへの期待。
- 2 現実には起こり得ないことが自分の身に起こることへの期待と、そこでの経験が未来を変えてしまいかねないことへの恐怖。
- 3 時間をさかのぼる能力が備わったことへのとまどいと、そこで出会う人々を通して、自分が生まれる前を知ることへの期待。
- 4 時間をさかのぼる能力が備わったことへの期待と、そこでの経験が未来を変えてしまいかねないことへの恐怖。

— 9 —

三

次の問いに答えなさい。

問一 次の慣用表現が（ ）の意味になるように、ア イ ウ にそれぞれ適切な漢字一字を入れなさい。

ア をとがらせる……………(不満な様子)

イ をかたむける……………(注意深く聞く様子)

ウ が広い……………(知っている人が多いこと)

問二 次のア イ オの熟語の説明として、最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

ア 暖流 イ 往来 ウ 地震 エ 成功 オ 尊重

- 1 似た意味の漢字を重ねている。
- 2 上の漢字と下の漢字が反対の意味になっている。
- 3 上の漢字と下の漢字が主語と述語の関係になっている。
- 4 上の漢字が下の漢字を修飾している。
- 5 下の漢字が上の漢字の目的語になっている。

問三 次のア・イの漢字の部首名をそれぞれひらがなで答えなさい。

ア「究」 イ「庭」

— 10 —

※欄には記入しないこと

受験番号	氏 名